

# 水木しげる氏

## 表紙絵

＝森で行水＝

表紙絵：水木しげる

- |                                |     |
|--------------------------------|-----|
| ・ 特集：図書館の本が棚にならぶまで.....        | 2～5 |
| ・ 2022夏休みにすすめる本.....           | 6   |
| ・ 4階展示「日本復帰50年 沖縄を知る」/小展示..... | 7   |
| ・ 郷土の歴史と伝承.....                | 8   |

# 図書館の本が棚にならぶまで

日本では令和2年に約6万9千点（総務省統計局HPから）の本が出版されています。毎年多く出版される本の中から図書館の本がどのように選ばれ、皆さんのお手元に届くのでしょうか。本が棚にならぶまでをご紹介します。

## 本をえらぶ（選書）

図書館には、ほぼ毎日、新しく出版された本の一部とリストが書籍取次会社から送られてきます。それを参考に、中央図書館の職員は人文、社会、自然、文学、児童などの分野に分かれ、本を選ぶ選定会議を週1回開いています。そして利用動向や利用者からのリクエストをふまえ、調布市立図書館の収集方針（図書館のHPでご覧いただけます）に照らしながら本を選んでいきます。

利用の多い文学分野は、全館で何冊所蔵するかという観点から、分館の職員も交え選定を行っています。

分館では各館の担当者が、各地域の利用状況や中央図書館の選定内容を基に本を選んでいきます。



－選定会議の様子－

## 注文する

1週間分の本の選定が終わると、リストをもとにどの本をどの館が購入するか集計します。集計後はコンピューターで注文する本の情報を登録します。登録した情報の確認や修正作業をしたあと、注文の最終処理をします。



## 納品・検品

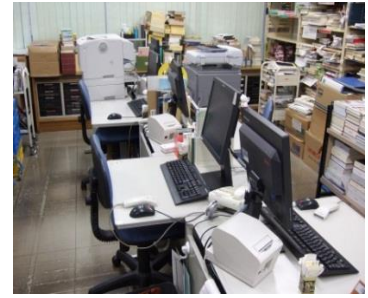
注文した本は、調布市内の書店組合を通して納品されます。納品された本が注文したものに間違いがないか、本に傷や汚れがないかなど、1冊ずつ検品します。



－検品前の本－

## 本の受入れ

コンピューターで本のデータを確認し、請求記号（本を内容によって分類するための数字や記号）や、どこの棚に並べるかなどを決めます。データに不備があると、ぴゅー太（館内蔵書検索用パソコン）や図書館のホームページで正しく表示されないため、担当者がデータを整備します。



－受入れを行う作業室－

受入れの担当者はデータの最終チェックをしながら、バーコードの数字、請求記号、棚の場所を表すコードなどをコンピューターに登録していきます。

## 本の装備

受入れが終わった本は、ラベルの貼付など、本の管理に必要な装備を行います。装備作業の大部分は専門の業者に依頼しますが、本に付属資料がついているものなど、特殊なものは図書館で行います。また、予約がある本は皆さんに早く届くよう急いで装備します。

①請求記号をラベルに印字し本の背に貼る

→②本をフィルムコーティングする

→③CDなどの付属資料がある場合は、付属資料を専用のケースに入れ替え、ケースにラベルなどを貼る



## 本を棚にならべる（配架）

業者により装備されたものが納品されると、きちんとフィルムコーティングがされているか、ラベルの印字に間違いがないかなどを確認します。そのあと、コンピューターで納品処理をし、中央図書館の4階・5階・地下書庫、分館などに仕分けし、棚に請求記号順にならべます。（この作業を配架と呼びます）

### ◇◇◇本のラベルが表しているもの◇◇◇

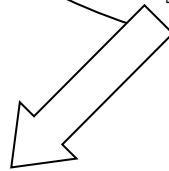
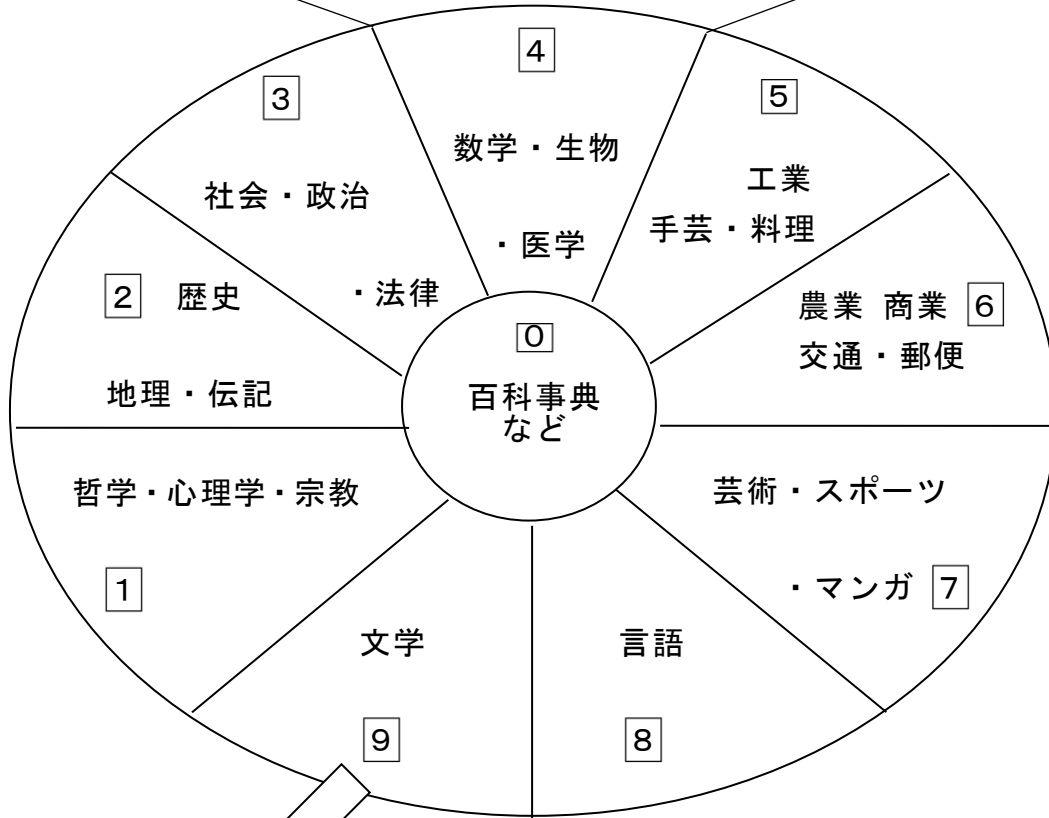
本の背についているラベルの数字は本の内容を表しています。図書館では、たくさんの本をできるだけわかりやすく探せるように同じ内容の本を集め、番号順にならべています。例外もありますが、主なものを説明します。



※図書館の本は、日本十進分類法に準じて分類しています。

400	410	420	430	440	450	460	470	480	490
自然科学	数学	物理学	化学	天文学	地学	生物学	植物学	動物学	医学

例えばこの中を  
さらに細かく分けると



9 1 3 日本文学  
※ 所蔵数が多いため、日本の小説は、著者名の頭一文字等のカタカナ一字で表示しています。  
9 2 ~ 9 9 外国文学

そのほか

E 絵本  
P 紙芝居  
Q マンガ  
…等もあります。

◇◇◇人文、社会、自然、文学、児童以外の分野紹介◇◇◇

地域資料

調布市をはじめ東京都や多摩地域についての資料を収集しています。発行元からの寄贈など多くの皆様のご協力があり、書店では見ることのできない資料を含め全館で約7万9千点を所蔵しています。ポスターや新聞記事等、図書以外の様々な形態の資料も収集しています。

## 映画資料

調布市には日活撮影所、角川大映スタジオをはじめ、映画・映像関連企業が数多く立地しています。図書館では、地域の特性をアピールするコレクションとして映画関連資料を収集しています。資料の中心は図書や雑誌ですが、映画関係者などから寄贈していただいた撮影台本やポスターなどの貴重な資料のほか、職員等が収集したパンフレットやチラシが含まれます。台本は中央図書館映画資料室内で閲覧できます。また、ポスターはデジタル化した画像を中央図書館5階参考図書室内のデータベース席や全館のぴゅー太でご覧いただけます。

## 利用支援サービス用資料

通常の印刷物による読書が困難な方へのサービスとして、音訳資料（音声 DAISY(※)、マルチメディア DAISY 等）、点訳資料、布の絵本などの収集・提供を行っています。これらの資料は販売されているものが少ないため、リクエストや地域資料を中心に製作も行います。また、どなたでも利用できる大活字本は、できるだけ購入し、中央図書館4階と分館の専用コーナーで手に取っていただけるようにしています。



※DAISY 図書とは国際標準規格 DAISY (Digital Accessible Information System) で作成したデジタル版の録音図書のことです。

## 図書館の本の取扱いについてお願い

図書館の資料は市民の貴重な財産です。返却された資料は、カウンターで、利用者の忘れ物が挟まれているか、修理箇所がないか等点検をしています。本の状態によっては、返した方にお心あたりがないか伺うことがありますので、ご理解、ご協力をお願いします。皆さんが気持ちよくご利用いただけるよう、大切にお取り扱いください。

- 切取り、書き込み、付箋の貼りつけはしないでください。
- たばこや香水等の強い匂いをつけないでください。
- 紛失・汚破損・水濡れ等には十分お気を付けください。(急な雨や飲料の結露で濡れることがあります。ビニール袋に入れるなどのご配慮をお願いいたします)
- 本が破れた場合は、ご自身で修理せず、そのまま図書館にお申し出ください。(図書館に専用の糊やテープがあります)
- 資料を紛失・汚損された時は、弁償をお願いする場合があります。

## 「2022夏休みにすすめる本」を発行します。

小学生におすすめの本を紹介したリストで、「1・2年生」、「3・4年生」、「5・6年生」と3つの種類があります。毎年、小学校の先生と協力して作成し、市立小学校の児童には学校を通じて配付しています。

その中には、『はじめてのキャンプ』（林明子さく・え 福音館書店）や『こおり』（前野紀一文 斉藤俊行絵 福音館書店）をはじめ、『おばけのジョージーおおてがら』（ロバート・ブライト作絵 中川千尋訳 徳間書店）といったちょっと怖い(?)本など、夏にぴったりの本を載せています。また、『魔女の宅急便』（角野栄子作 林明子画 福音館書店）のようにシリーズの本がたくさんあり、夏休みにじっくり読める本も紹介しています。

このリストは7月7日(木)に発行し、市内の各図書館で展示を行います。毎年、たくさんの子どもたちがこのリストで紹介した本を借りに来てくれます。

夏休みはぜひ、お近くの図書館に足を運んでみてください。

【ほかにもこのような本が載っています。】



「1・2年生」



『雨の日の地下トンネル』 鎌田歩作 アリス館

雨水はどうろの下を流れて川にあつまり、「たてこう」というおおきな地下のトンネルへながれこみます。はくりよくいっぱいの水の流れや地下の様子をのぞいてみましょう。

「3・4年生」

『わっしょいー深川八幡水かけ祭りー』

やじまますみ作 富岡八幡宮監修 ポプラ社

深川八幡祭りは、江戸三大祭りの一つです。一週間かけて準備をし、むかえる本番。練り歩くお神輿に水をかけ「わっしょいわっしょい」と町中が盛り上がります。



「5・6年生」

『5000キロ逃げてきたアーメット』

オンジャリ Q. ラウフ作 久保陽子訳 学研プラス  
アレクサのクラスにしゃべらない男の子、アーメットがやってきました。親しくなるにつれアーメットのひみつを知ったアレクサは、彼を助けようと親友たちとともにある作戦を執行します。





#### 4階展示「日本復帰50年 沖縄を知る」

沖縄県は、令和4年5月15日に日本復帰50周年を迎えました。この歴史的な出来事をふまえ、中央図書館では、「日本復帰50年 沖縄を知る」を展示中です。展示資料を「復帰前後の様子」「基地問題」「沖縄を知る」の3つに分け、それぞれ赤・紫・黄色のハイビ



スカスのシールを目印にしています。沖縄のこれまでの歩みや、今なお負担が重い基地問題、沖縄の魅力など、関心がある本を手にとっていただければと思います。7月24日（日）まで展示しています。

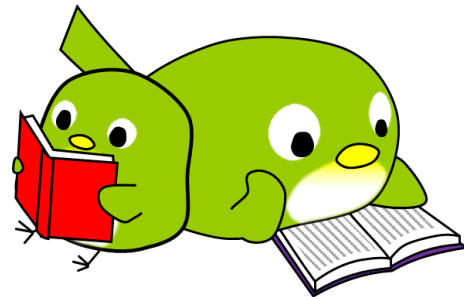
#### 4階小展示



▲令和3年「医療小説 医療現場にエールを！」

中央図書館4階では、年間を通して文庫本展示を行っています。2ヶ月ごとにテーマを変えて、時代小説や、トラベルミステリー、映像化された人気作品などを手に取りやすく並べています。

次のテーマは何だろう？と楽しみにしていただけると嬉しいです。



## ハレ（晴）の酒、ふだんの酒

関口 宣明 のぶあき

## 1) 神祭りとお酒

自然を相手に暮らす農村では、神に酒や食物を供えて、豊作や疫病よけなどの願い事をする「祭り」がとても重要でした。そこで米の収穫ができる秋を待って「酒」を仕込み、春になると稲作でもっとも大切な田植の無事を祈って神に供え、神の力を分け与えてもらうために酒、供物をともに飲食しました。

## 2) 村祭りに残る武家の時代の酒

飲酒は本来、祭りや冠婚葬祭など特別なときにだけ許されたものでした。調布の村祭りや婚礼には、家柄や主従関係を重んじる武家の影響をうけた厳格な酒の作法が見られます。

柴崎稲荷神社の二月初午祭には、「大喰講」といって、村人が酒五合と米五合を持ち寄り、古い作法を守って酒を飲み、供物である「高盛飯」を神とともにいただく行事が伝えられてきました。この神事では、上座（神主、村の役持ち、年長者の席）と下座（一般の村人）との間で、酒が7回、漆器椀の蓋に注がれて往復し、その間に二度、高盛飯がふるまわれます。そして最後に今年の当番夫婦四組と翌年の神事を世話する夫婦四組が交代するために盃をやりとりしました。

また今日では、婚約の際に「結納」とよばれる手続きを行ないませんが、明治時代前期には、結納の前にまず仲人と嫁方の親などが酒を酌み交し、二度の儀式を重ねる習わしがありました。

調布では、「口固め」といって、イイノウ（結納）の何日か前に、配偶者を迎える方の仲人が、酒と鰹節を持って受け方の家に行き、両家の仲人同士で結婚の約束が交わされました。

また三々九度の盃に使われる「三つ重ねの盃」は婚礼に限らず、地方の祭りや、親戚、客人などを招いて行なう酒宴でも使われました。

## 3) 一般飲酒の広まり

農村などで日常的に飲酒の習慣が広まったのは、おもに明治時代になってからのことです。特に日清、日露戦争時の出征や除隊祝いの宴会が全国的に流行し、さらに灘、伏見などから上質な清酒が各地に鉄道で運ばれるようになると、消費量はどんどん増えました。当時は、冷やの清酒や濁酒を飲むため、酒屋が客に徳利を貸し出しました。「通り徳利」「貧乏徳利」とよばれ、昭和初期にガラス瓶が普及するまで数多く使われました。



美濃高田焼の徳利

また農村から都市へと働きに出る人が増えてくると、村の中で行われていた共同飲食の場は、村外の人々との宴会、会食に移っていききました。飲酒は人を緊張から解きほぐし、社交性を高める効果があります。そこでなじみの薄い人同士が近づきになる手段としても酒宴という古い形式が活用されたのです。

時代が移り変わっても、人と人との結びつきを強め、文化をも培ってきた日本独特の酒※は、地域の暮らしの変遷を知るうえで大切なものといえるでしょう。

※酒は、日本の気候、風土に合った麹菌（平成18年に「国菌」に認定）を発酵させて醸造します。

参考文献：『調布市史 民俗編』 『日本民具辞典』

刊行物番号

2022-52

図書館だより 第263号

令和4年6月25日発行 [庁内印刷]

発行 調布市立図書館

〒182-0026 東京都調布市小島町2-33-1

TEL 042-441-6181

<http://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/>